

EEC

Education ExChange Community

(<http://www10.plala.or.jp/yasnoli/>)

—東日本大震災教育支援募金活動報告(IV)—

高 館 千 枝 子

028-3603

岩手県紫波郡矢巾町西徳田 7-7

Tel/fax : (81) 019-697-3851

Mail:tchieko@cocoa.ocn.ne.jp

『 EEC から唐丹へ そして 唐丹から EEC へ 』

— EEC は本当に小中学生の力になれるか…? —

6 月 16 日 (木)、EEC 東京支部の 高橋則子さん、本木英子さんに、私を加え 3 人で唐丹小中学校を訪問しました。

盛岡駅 9 時 58 分着の新幹線から降りた二人を出迎え、一路沿岸部に向かって車を走らせること 3 時間。大槌町を經由し、唐丹小学校に着いたのは午後 1 時。

青 笹校長先生にお会いした後、

4 月 23 日に入学式した 1 年生

12 名の教室を訪問。担任の大和田先生ともすっかり溶け込み、屈託のない子供達の明るい姿は「外の荒れた景色も何のその、この子達が大人になるまでは……。」と大人たちを元気にするに違いありません。次いで唐丹中学校へと向かい、2 時の約束の時間に、やっと間に合う事が出来ました。



校長室には尊喜ちゃんのおじいちゃんの内川利久さん、毎日新聞記者、山田尚弘さんが校長先生とご一緒に待っておりました。

二度目の訪問とあって、**教育現場の厳しい実情**をお聞きし、EEC の支援活動も更に活発にし、支援の実感を感じてもらえる活動にしなければならぬと強く思いました。

「唐丹小中学校訪問」

EEC 東京支部 高橋則子

3月11日以来、新聞

やテレビで報道される被害の大きさは想像を絶するものだった。そんな時、高館さんが唐丹の子供達に支援の手を差し伸べるプロジェクト立ち上げた事を知り、何の迷いもなくこれは協力しなければと思った。親戚や友人に声をかけ協力を呼びかけたところ大勢の人が気持ちよく応じてくれて本当に有難かった。



被災後2ヶ月余り経った頃、高館さんから一度被災地に行ってみませんか？と誘われた。私は行くなら今かなと思ひ応援してくれている友人に声をかけ訪問が実現した。高館さんが住む矢巾町から唐丹までは片道2時間の道のり。当日はすばらしい天気だった事もしばらくの間はあの大地震が嘘のようにのどかな景色だった。ところが、一つ山を越えるとあたりは一変した。いたるところに瓦礫の山。建物は残っているが到底住めそうにない家が点々と…言葉が出なかった。津波がこんなところにまで押し寄せてきたのかと改めて津波の恐ろしさを思い知らされた。

唐丹小学校は被害がひどく、平田小学校に間借りしていた。校長室に案内されてまず驚いたのは、パソコンはあるものの机と椅子と来客用のセットが置いてあるだけ。これでは十分な仕事が出来ないのでと心配になった。ところが色々お話を伺っているうちに、震災にあった事で今まで当たり前だと思っていた事が、実はそうではなかったのだと気づき始めた子供がいる、これこそが何よりの教育だと笑顔で話して下さったのが印象的だった。一年生の教室にお邪魔して子供達と話したり、写真を撮らせてもらったりしたが、みんな笑顔で明るかったので少し安心した。



その後、唐丹中学校を訪問した。中学生ともなると学校でかかる費用もかさみ、大きな被害を受けた家庭が多いので大変苦勞している様子だった。できるだけ手作りするなどして、なるべくお金をかけないでやっていこうと、先生方で話し合ったとの事だった。校長先生は、震災の日の状況が頭にはっきり残っていて、今でも夜はぐっすり眠れないそうだ。子供達も、おそらくそうであるに違いないので、これからは精神面でのケアをどうしたらよいか心配だとも話して下さった。

ここでは、大阪の毎日新聞本社から EEC の活動取材に来てくださった山田さんという記者と会うことが出来、高館さんから唐丹の子供達に支援の輪を全国に広げてくれるよう、お願いして学校をあとにした。

私は日帰りの予定だったので充分とはいかなかったが、現地を訪れて本当に良かったと思った。新聞やテレビで見るのとは違って、実際にこの目でみたり被害にあわれた人に会って話を聞くことで、これから自分が何をすべきか分かった気がした。一人の力は小さいが、二人、三人と増えれば大きな力になる。そのためには一人でも多くの人に声をかけ大きな力で支えられるように頑張ろうと思った。



“30”の瞳

唐丹中学校1年

川原 百莉

私はこの震災で家がなくなってしまいました。でも、今はアパートに引っ越しを

しました。ほとんど物がなくて大変だったけれど皆さんに文房具などを支援していただき、助かりました。ありがとうございます。今は、学校で部活を特に

頑張っています。毎日大変ですが支援して下さる皆さんのためにも頑張りたいと思います。皆さんに改めて感謝します。今後も唐丹中学校の活動をあたたかく見守って下さい。



唐丹中学校 1年 鈴木 孝輔

私は、今回の震災で家が流されました。けれど、皆さんのおかげで学校に行けたり、部活が出来るようになりました。僕達もがんばるので高館さんもがんばってください。皆さんに感謝申し上げます。

唐丹中学校 1年 森 勝稔

私は、今回の震災で家が流されました。でも、皆さんのおかげで毎日、楽しく部活などができています。3年生を中心に部活で中総体優勝を目指して頑張っています。

唐丹中学校 1年 鈴木 彩乃

私は、震災で家が流されました。家を見たときは、とてもショックでした。ですが、頑張って生活しています。皆さんに改めて感謝します。今後も唐丹中学校をあたたかく見守って下さい。

唐丹中学校 1年 鈴木 結貴

私は、家は流されませんが、しばらくの間厳しい生活をしていました。が、多くの方が支援してくれたおかげで、ほとんどもとの生活にもどる事が出来ました。本当に助かりました。あらためて感謝いたします。

5月26日～6月30日までの支援者41名（通帳記載順、敬称略）

城戸誠、城戸梢、向富士子、千田あかね、本井直子、高館睦、廣澤三子、齋巖、高館精記、及川登美子、小川篤子、安東マチ、村山代利子、下村達志、吉川良子、佐藤正子、藤島康紀、廣澤三子、菅原光江、手代木勝、スズキタモツ、佐々木由美子、高館千枝子、マツイ、佐藤貴和子、本木英子、本木敏、等々力美津子、山田涼子、田沢洋子、中澤哲、中澤礼子、高橋則子、谷口弘記、須釜菜穂子、吉田朋子、サマガイ、荒川萃代、ササキ、笠原はな、アベトシユキ。

6月16日の訪問者—高橋則子、本木英子、高館千枝子【EEC通信はHP：「高館千枝子」で検索可】

EEC 東日本大震災教育支援募金プロジェクト

EEC 通信 14号

2011年6月30日発行